

エシタロプラム錠10mg・20mg「ニプロ」 を服用される患者さんにご家族の方へ

エシタロプラム錠10mg「ニプロ」



錠剤（実物大）



PTPシート（50%縮小）

エシタロプラム錠20mg「ニプロ」



錠剤（実物大）



PTPシート（50%縮小）

この薬の飲み方

- 飲む量は、あなたの症状などにあわせて、主治医が決めます。主治医の指示どおりに服用してください。
- この薬は、コップ1杯程度の水またはぬるま湯でそのまま飲んでください。
- この薬は、体調がよくなったとご自身で判断して服用を中止したり、飲む量を減らしたりすると、「些細なことでも心配になる、いらいら、あせり」などの症状があらわれることがあります。主治医と相談しながら指示どおりに飲み続け、最後まで治療を続けてください。万一間違えて多く飲みすぎてしまった時には、医師に連絡してください。

飲み忘れた場合の対応

- 飲み忘れに気がついた時に、できるだけ早く1回分を飲んでください。ただし、次の服用時間が近い場合は忘れた分は飲まないで、次の服用時間に1回分を飲んでください。**決して2回分を一度に飲まないでください。**

エスシタロプラム錠「ニプロ」は、うつ病やうつ状態を改善するお薬です。飲み始めは、すぐに効果はあられませんが、飲み続けると、脳内に作用し、脳内の神経伝達をスムーズにし、症状を和らげます。

服用する前に必ずお読みください

- 次の方は、この薬を使用することができません。服用する前に必ず主治医に相談をしてください。
 - 以前にこの薬に含まれる成分でアレルギー（かゆみ、発疹など）などの過敏症が出たことがある方
 - セレギリン塩酸塩、ラサギリンメシル酸塩、サフィナミドメシル酸塩を服用中、あるいは服用中止後14日間以内の方
 - ピモジドを服用中の方
 - QT延長のある方（先天性QT延長症候群など）
心臓の病気がある方、心電図検査で何らかの指摘を受けたことがある方は主治医にお伝えください。
- 次の方は、この薬を使う際に特に注意が必要です。服用する前に主治医と十分に相談してください。
 - 不整脈、不整脈と診断されたことがある方、うっ血性心不全、低カリウム血症のある方
 - QT延長を起こすことが知られている薬を使用している方
 - 高齢の方
 - CYP2C19（エスシタロプラムを分解（代謝）する酵素）の活性が遺伝的に欠損している方
 - 肝臓に障害のある方
 - 腎臓に高度の障害のある方
 - 死にたいと強く思ったり考えたことがある方
 - 躁（そう）うつ病の方
 - 脳に器質的な障害があると診断されたことがある方、統合失調症になることが考えられる方
 - 衝動的な行動を起こしやすい病気を合併している方



- てんかん等のけいれん性疾患がある、これらの疾患と診断されたことがある方
- 出血の危険性を高める薬を使用している方、出血しやすい方
- 閉塞隅角緑内障の方
- 小児
- 妊婦または妊娠している可能性のある方
- 授乳中の方
- 他の薬を服用している場合や、新たに服用する場合は、主治医に相談してください。
- 6～11歳のうつ病の患者さんがこの薬を飲んだ場合、有効性が確認できなかったという報告があります。12歳未満の方は、主治医と十分に相談してください。

服用中の注意

- 服薬治療中は薬の効果の確認や副作用を早く見つけるためにも、定期的に診察を受けてください。
- アルコール飲料は、この薬に影響しますので控えてください。
- 眠気やめまいなどがあらわれることがありますので、自動車の運転などの危険を伴う機械を操作する際には十分に注意してください。
- うつ病やうつ状態の患者さんは、死んでしまいたいと感じることがあります。この薬を飲んでいる間、特に飲み始めや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあります。このような症状があらわれた場合は、主治医に相談してください。
- 次のような症状があらわれた場合には、主治医に相談してください。



不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない

- この薬との関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた患者さんの中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。

- 次のような不快な症状(副作用)がみられた場合には、主治医や薬剤師に相談してください。

吐き気、眠気、頭痛、口の渇き、めまい、倦怠感、下痢、腹部不快感 など
また、射精障害、射精遅延、性的な関心や性欲の低下などの症状を
自覚された場合

～ご家族の方へ～

「死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来す」などの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもととある病気の症状が悪化する危険性について、主治医から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、主治医に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族や周囲の方にも伝えるようにしてください。

- 他の医療機関を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。
- この薬は直射日光と湿気を避けて室温(1～30℃)で保管してください。
- その他、気になることがありましたら、主治医または薬剤師に相談してください。



医療機関名